

知夫村体育協会

これまでのあゆみ

知夫村体育協会の設立以前の本村のスポーツ活動は、昭和40年以前には、テニス、バレーボール、卓球、ソフトボール、相撲などが行われていたが、村内を一つにまとめる活動ではなく、各々で行われていて、村外団体との試合はほとんど行われていなかったようである。

昭和40年以降、東京オリンピック開催の影響もあり、当時の村内の若者がスポーツ愛好会を設立した。それが現在の体育協会の前身とされている。スポーツ愛好会設立当初は会員自らが行事を企画し、自分たちでチラシの作成や配布をして村民へ周知し実施してきた。村外の団体との試合はすべて自己負担だったと言われている。離島というハンデの中、活動が盛んになり、対外試合が増え資金不足等の問題もあり、体育協会の設立の機運が高まり昭和42年にスポーツ愛好会をもとに知夫村体育協会が設立された。

設立後は当時でいう体育指導員を配置し、隠岐郡内で開催される各種大会への参加や村民へのスポーツ振興のために村内での大会の開催を行ってきた。現在は教育委員会が事務局を運営している。所属のスポーツ団体は島前地域での大会参加はもとより、村内で団体が企画運営する独自大会や村外で行われる試合へ定期的に参加したり、村外の団体を招待し知夫村にて交流試合を行ったりと各団体でできる範囲でのスポーツ振興に関わっていた。



知夫小中学校の運動会も兼ね、中学生が役員としても協力

現在の状況

体育協会の主催事業の村民体育祭は、全村民を対象とした村内最大規模の行事として実施されてきている。この村民体育祭は小中学校の運動会も兼ねており、そこに保育園、地域住民の競技を加え、保育園児から高齢者まで幅広く競技への参加や応援に駆けつけていただいている。コロナ禍の影響で中止せざるを得ない時期もあったが、令和5年度に65回目を実施することができた。

4年ぶりの開催ということもあり、中止前の状況と全く同じには実施できなかったが、多くの村民に参加、応援に来場していただき、久しぶりに村民誰もが気軽にスポーツを行って楽しむ、見て楽しむことができたのではないかと思う。

これから

今後は時代の変化や少子高齢化、人口減少の中でかつてのような活動がそのままできないことも予想される。体育協会としてではなく、社会教育、学校教育、高齢者、福祉事業等での総合的な村のスポーツ事業として、どのような形が知夫村にあった持続性のある活動になるかを考えていく必要があると思っている。

〈村民体育祭〉



地区対抗綱引き



高齢者から幼児まで参加